

月	栽培管理
	◎レモンはカンキツ類の中でも耐寒性が極めて弱く、冬の最低気温がマイナス3度より下がらない園地が望ましい。かいよう病にも弱いことから、日当たりが良好で、強風の吹きつけない園地に植えつける。
1 2	【石灰の施用】 苦土石灰 200kg/10a 土壌酸度を適正に保つ。
3	【整枝剪定】 特に若木は樹勢が強く花芽が付きにくいので、樹勢が落ち着くまでの整枝剪定は、整枝を主体とし、徒長枝や混み合う枝の間引きを軽く行う程度とする。また、花芽が着く春枝の先端は切り返さない。枝は立ち性で太く放置すると高くなるので、枝を下げ誘引をする。 樹勢が落ち着いてきたら、徐々に剪定量を増やし、開心自然形にしていくが、樹勢が強いため、過度の剪定は徒長枝が多発し結果しなくなるので注意する。 樹冠内の枯れ枝は黒点病防除のため、常に除去するよう心がける。 【春肥施用】(3月中旬頃) 特選みかん配合 160kg/10a 施肥後、軽く中耕を行う。
4	
5	【傷果対策】 防風対策と灰色かび病、かいよう病、訪花昆虫(コアオハナムグリ、ケシキスイ類)、ダニ類の防除を徹底し、秀品率の向上に努める。 レモンは四季咲きであることから、この時期以降も開花結実する。必要に応じて傷果対策を行う。
6	【夏肥施用】(6月上中旬) 特選みかん配合 160kg/10a 【傷果対策】(6月中下旬) 黒点病、ダニ類、アザミウマ類の防除を徹底し、秀品率向上に努める。
7 8	【摘果】(7月下旬～) 7月下旬頃から順次小玉果、傷果、病虫害果を中心に摘果する。 【傷果対策】(8月下旬～10月) かいよう病、黒点病、ダニ類の防除を徹底し、秀品率向上に努める。
9	【初秋肥施用】(9月中旬) 特選みかん配合 120kg/10a
10 月以 降	【夏秋梢の処理】(10月中旬～11月) 徒長した夏秋梢は、果実肥大を促すために、秋芽が発生しなくなる10月以降に剪除する。 【秋肥施用】(10月下旬) 特選みかん配合 100kg/10a 【収穫】(10月～) 採果基準は、大きさ、着色等が出荷先により異なるので、その出荷規格に達したものから順次採取する。 収穫時のトゲ傷だけでなく、果皮が硬く傷がつきやすいので果実の取り扱いはていねいに行う。 【貯蔵】 常温貯蔵は、腐れが多いことから冷蔵貯蔵を基本とする(気温5℃、湿度85%)。 冷蔵貯蔵できない場合は、集荷時期に合わせた収穫を行い、貯蔵期間を極力短くする。